

## 平成18年度 教職員による自己評価

学校は、教育活動その他の学校運営について、目標(Plan) - 実行(Do) - 評価(Check) - 改善(Action)というPDCAサイクルに基づき、継続的に改善していく必要があります。そのためには、目標を適切に設定することが重要です。

本校では、学校教育目標(「よりよい社会の実現に貢献しようとする人間性の育成」を掲げている)とともに、目指すべき成果やそれに向けた取組に関する中期的な目標を具体的に設定しています。

今年度は、「学力向上アクションプラン～洛西方式～」を立ち上げ、「学力の向上と学力格差の解消」を目指して、4つの柱を掲げ、具体的な取組をすすめてきました。4つの柱は以下の通りです。

- (1) 授業時数確保の取組(量的な学力向上プラン)
- (2) 授業改善の取組(質的な学力向上プラン)
- (3) 家庭学習習慣化の取組(家庭連携によるプラン)
- (4) 小中連携・中高連携・土曜スクールの取組(地域連携によるプラン)

今年度、これらの取組が、どの程度成果が上がったのか、また上がらなかったのか。これから検証していきたいと思っています。

「これだけの取組を実施しました」というプロセス(どれくらいがんばったか=がんばり度)を問う検証ではなく、「これだけの成果が出ました」という結果責任を問う検証が大事です。そして、その検証(評価)を来年度へ向けての改善に生かしていくことがもっと大事です。

保護者の方々にもご支援・ご協力をお願いいたします。

義務教育諸学校における学校評価ガイドライン(平成18年3月27日発表)によれば、学校評価の目的は3つあります。

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取組について目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、組織的・継続的に改善すること。

各学校が、自己評価及び外部評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりをすすめること。

各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。



## 本校教職員による自己評価結果です

先ごろ、学校教育目標や教科指導、学力向上アクションプラン～洛西方式など、今年度の取組について、教員一人一人が点検（自己評価）しました。その一部を紹介します。（4点＝できている。3点＝どちらかといえばできている。2点＝どちらかといえばできていない。1点＝できていない。）の4点満点で、各教員が点数をつける方法で実施。下の数値は全教員の平均です。平均が2.5以上ならまずまずの点数と考えています。

1	学校教育目標	学校・地域の実情にふさわしい教育目標が設定されている	3.09
2		今の時代状況にふさわしい「めざす生徒像」が設定されている。	3.26
3	教科指導と 評価	年間指導計画及び月ごとの学習指導計画に即して授業を進めている	3.41
4		授業の中で評価の観点や規準を生徒に明示できている	3.32
5		定期テストなどの結果から指導方法の工夫・改善をしている	3.36
6	選択教科	学校選択を導入したことで、生徒一人ひとりの学力向上につなげることができる	3.23
7	学力向上ア クションプラン	週30コマの授業時数の実施は生徒の学力向上に効果が見られる	2.86
8		土曜スクールでの英語学習は英語に対する興味を深め、効果が見られる	3.00
9		学力向上のために家庭学習を充実させる宿題を適切に課すことができた	3.00
10		中高連携の出前授業は生徒の学習意欲向上や進路展望に役立っている	3.00
11		小中連携による出前授業は中学校へのスムーズな入学や学習への意欲付けに役立っている	3.10

選択教科については教科を学校選択としていますが、その教科内で発展コースと基礎コースに分ける、いわゆる教科内個人選択を採用しています。